

前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>30年度の重点目標</p>	<p>①本校の歴史と伝統に誇りを持つとともに、規律を守る品位・品格ある生徒、行動力と思いやりを備えた社会のリーダーとなる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の集団生活を通して、気持ちよい返事と自分から挨拶ができる生徒を育てる。 ・情報モラルや交通モラルの向上を図り、自他の命を大切にする思いやりのある生徒を育てる。 ・学校行事、部活動やボランティア活動への積極参加を促し、統率力、協調性、粘り強さ、社会性を備えた人間性豊かな生徒を育てる。 <p>②社会の動向や教育界の動きを視野に入れて、時代に対応した教育活動を展開する。また、国際理解コースの設置をいかし、グローバル社会で活躍する人材育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の体験学習を推進し、国際理解教育、平和教育の更なる充実を図る。 ・高大接続改革、新学習指導要領の施行を踏まえた学習指導法の改善に取り組む。併せて、現職研修の充実を図り、生徒のニーズに応じた教育環境を整備する。 ・「高大連携事業」「知の探究講座」「海外派遣」「出前講座」「現地見学」「インターンシップ」「ジョブシャドウイング」等に積極参加させて、生徒が将来に向けた夢や具体的な目標を掲げ、高い志のもとに大学進学を目指す姿勢を確立する。 <p>③清潔で落ち着いた教育環境、安全・安心な学習支援体制を整備し、心身ともに健康な生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不適応や学習障害を抱える生徒の情報共有に努め、スクールカウンセラーや関係機関等とも連携を図り、迅速かつ柔軟に対応する体制づくりに努める。 ・日常の清掃活動を通して環境衛生に高い意識を持たせるとともに、施設を大切に使い感謝の気持ちを行動に表すことができる生徒を育てる。 <p>④日常の業務内容や校務分掌等組織の見直しを通して、効率的・効果的な業務遂行の機運を醸成し、教職員の多忙化解消を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな勤務時間の割り振りを通して、業務内容にメリハリを持たせる。 ・校務分掌の統合、その検討を通して、これからの時代に対応した業務の見直しと教職員の組織的・協力的な学校運営体制の確立を目指す。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>広報活動 (総務部)</p>	<p>防災教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する知識を身に付け、訓練を通して実際に行動することを通して意識を高め、緊急時の避難活動が自主的にできるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、防災だよりの発行を継続した。 ・文化祭で防災委員会による企画展示をした。展示以外に、防災への意識啓発を兼ねて防災食の試食をしたところ、生徒には好評であった。 ・行事のスリム化を図るため、防災講話を削減した。 ・防災に関する知識が実際の行動として活用できるようにするには、定期的な訓練と日頃の啓発活動を継続する必要がある。
<p>学習指導 (教務部)</p>	<p>教員の業務内容の精選とその効率化を図るシステムの研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理システムの研修会を実施し、成績処理の流れを徹底する ・指導要録の電子化の研究をし、課題を見付け改善する 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理について教科担任、学級担任、教務部の連携を密にしチェック体制を見直し、手順を示した。今後更に定着を図りたい。 ・転学、休学、原級留置等の生徒の指導要録電子化について流れを確立できた。
<p>読書指導 (図書部)</p>	<p>生徒図書委員会活動を活発化させることで、生徒の集う図書館を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り「みこし草」での広報活動に加え、教養講座、読書会、ミニコンサートなどを企画し、生徒が気楽に図書館に足を運べる環境を創出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・新転任教員や図書委員の「お薦め図書」を連載し「みこし草」の充実を図った。 ・「原爆展」をはじめ図書委員による展示企画を行い、図書館への来館を促した。 ・「新聞の読み方」「ディズニーで働くということ」「ブックトーク」の3回の教養講座を実施し、生徒の興味関心を広げるきっかけとなった。 ・Classiによる読書調査を実施したが、回答率の向上や利用方法など今後の課題である。
<p>研修 (研修部)</p>	<p>現職研修の精査と充実 情報化による業務の削減 国際理解コースの活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌と連携した現職研修の実施 ・継続して要録等各種帳簿の電子化を研究する ・国際理解講座の実施と国際交流事業の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部、進路指導部、保健環境部との連携で適切な時期に現職研修を実施した。 ・各種帳簿の電子化やClassiについての効果的な活用方法の研究を続けた。今後も継続していく。 ・国際理解教育の一環として、国際理解講座を実施した。今後も国際理解コースをより活性化していくために、事業を精選し企画運営していきたい。
<p>生徒指導 (生徒指導部生活担当)</p>	<p>学校生活での品位の向上 いじめの未然防止と早期発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降口指導の実施(挨拶、遅刻、みだしなみ) ・交通死亡事故ゼロの日、交通安全県民運動の期間の交差点等での街頭交通指導の実施 ・携帯電話使用のマナーとモラル向上の指導 ・授業や集会、ホームルーム活動において、いじめや人権の問題を生徒が主体的に考える機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日校門及び昇降口で指導し、遅くとも8時30分には入室するように呼び掛けている。多くの生徒が余裕を持った登校ができています。しかし、毎日のように遅刻ぎりぎりの時間に登校する生徒もおり、遅刻が増加しているため、指導を強化していきたい。 ・交通死亡事故ゼロの日や交通安全県民運動を中心に学校周辺の交差点に立ち、一旦停止などの遵守などを指導している。 ・携帯電話の使用については、第1学年を対象にマナー講座を実施した。また、使用の現状を把握するためにアンケートを実施し、指導に生かした。 ・終業式で生徒に対して人権意識の高揚を図るために話をしている。11月22日に人権講話及び学校生活アンケートを実施した。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会活動 (生徒指導部 特活担当)	生徒会行事の内容 検討と生徒会活動 の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施している生徒会行事の検討 本校生徒に適した生徒会行事の模索 	<ul style="list-style-type: none"> クラスマッチ、ひがし祭等の実施時期の再検討が必要だが現状から大きく変えることは難しい。特にひがし祭の準備日程は非常にタイトで問題がある。 生徒会役員通年制についても検討していきたい。
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育を充実させ、将来への具体的な目標につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ミスマッチのない大学選びに向けた高大連携事業の定着化 ジョブシャドウイングへの積極的な参加 担任による継続的な面接指導 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知教育大学との高大連携事業、静岡大学との高大連携実験講座、愛知大学でのゼミ体験、豊橋技術科学大学でのラボツアーを通して、生徒の進路意識の向上につなげることができた。国際教育に対応した高大連携事業を検討していきたい。 豊橋市役所、市内小学校、医療施設見学会、会社訪問など、夏休みを中心にジョブシャドウイングに積極的に参加できた。 学年に応じたきめ細やかな担任面接を継続し、生徒の進路目標を維持させるように努めた。
保健活動 教育相談 (保健環境部)	心と身体の健康保持増進	<ul style="list-style-type: none"> けがの予防と正しい手当ての指導、緊急時に適切な行動が取れる生徒の育成 産婦人科医による講話 スクールカウンセラーによる指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> AED講習会、熱中症予防講話を開催し、生徒にけがや緊急時の対応について教育をした。また、職員AED講習会では、初のシミュレーション(グループ別の配役寸劇形式)訓練を実施し、いろいろな気付きと課題が見え、より実践的な実習となった。 「生殖」をテーマとした健康教育講座を産婦人科医を招いて行った。生徒は興味関心を持って参加した。 スクールカウンセラーによる面談を月1回程度行っているが、今年度よりカウンセラー来校の木曜日が7限授業日となり、業後に受けることができなくなった。そこで昼休みに弁当を食べながらランチカウンセリングを勧めている。
1年学年会	東高生としての自覚を意識させ、学習・部活動・行事に積極的に取り組む姿勢を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習習慣の確立 進路意識の向上 良好な人間関係の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を確立し、学校生活を送っている生徒が多い。来年度に向けて、中核学年としての意識を持たせる指導に取り組みたい。 目の前の考査に向けて、与えられた課題をこなす者が多かった。具体的な方法の提示をすることで、学習の質の向上を図りたい。 きめ細かな個人面談や生徒自身の心の成長で、他者への配慮ができるようになってきている。 行事や部活動に積極的に取り組んでおり、よい傾向にあった。
2年学年会	充実した学校生活を目指す 計画的な学習習慣の定着 具体的な進路目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な学習への取組と行事や部活動への積極的な参加 適切な課題を与え、家庭学習を定着させる 高い進路目標の設定と適切な支援 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動・修学旅行等はしっかり取り組めたが体育大会の応援や文化祭等は3年生と比べると、もう一步の積極性を求めたい。 家庭学習時間が増え、学力向上に真剣に取り組む者が増えてきたが、一部課題等に熱心に取り組めない者が見られる。 大学ラボツアー、大学ゼミ体験、模擬授業を通して、大学での学びを直接体験し、具体的目標を持てるようになった生徒が増えてきている。自信を持って高い目標実現に向かえる生徒の育成が課題である。
3年学年会	進路希望の実現 たくましく生きる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間調査の継続的な実施 面接指導の充実 学習指導の充実 最高学年としての自覚の促進 自主的行動を促す機会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 受験生としての自覚を持ち、学習時間はもちろんのこと、学習に対する真剣味が増してきた。 時期に応じたきめ細やかな学年指導と、担任による面接指導により、志望校合格への意識を高めることができた。 文化祭や体育祭では、クラスが意欲的に満足いく作品を作り上げることができた。 3年当初はけじめのない生徒もいたが、継続的な指導で意識の高い、他者へ配慮ができる集団になった。
職員の健康保持 (衛生委員会)	勤務時間の適正な管理 教職員の健康障害防止とメンタルヘルス保持	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の状況記録の有効活用 業務の適正化と多忙化解消 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の状況記録については、適正に作成できた。しかし有効活用するところまでできなかった。 多忙化解消に向けて、保護者にも理解を得ながら、教職員の意識が少しずつ変革している。メンタルヘルス向上と合わせ、更に職員の健康保持に努めたい。
総合評価	<p>高大接続改革に伴う大学入試への対応、新学習指導要領の施行に際しての学習指導法の改善等が求められる中で、Classiの導入・活用や教職員の現職研修などに積極的に取り組んだ。また、防災に関する危機管理体制の確立、生徒の心身の健康維持・向上、読書活動の推進を図ることも含めて学校環境の改善が着実に進んでいる。</p> <p>一方、教職員の働き方に関する意識改革は徐々に進んでいるものの、長時間勤務を減少させることはできなかった。次年度は更に具体的な取組を通して、生徒の心身のバランスに配慮した教育を展開し、教職員のワーク・ライフ・バランスを確立させる必要がある。</p>		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<p>①授業改善を目指した授業公開や評価アンケートの更なる充実を図る。 ②交通安全教育や日常の挨拶を始めとする生活マナーの向上に努める。 ③平和教育、キャリア教育、防災教育、健康教育など多面的な教育活動を推進する。 ④学校いじめ防止基本方針に基づく取組が適切に行われ、早期の防止対策を講じることができる。また、いじめの発見時に迅速・適切・誠実な対応ができる。 ⑤効率的・効果的な業務遂行の機運を高めることによる、教職員の多忙化解消の推進、教職員の健康障害防止の取組に努める。</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>①授業公開、評価アンケートとも充実できた。 ②毎朝の立番指導など、交通安全教育に力を注ぐことができた。 ③キャリア教育を中心に多面的複合的な教育活動を行うことができた。 ④いじめや不適切な言動の早期発見に努めた。 ⑤多忙化解消に向け、教職員の意識は格段に向上しているものの、数次的な解消には至っていない。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>①さらなる授業改善に努め、自ら探究する姿勢を育む。 ②校外でのマナー向上も含めて、継続的な生活指導を行う。 ③市役所との連携教育をさらに進展させ、全体発表の場も設定する。 ④早期発見と適切な初動に努める。外部機関との連携も強化する。 ⑤さらなる多忙化解消に意欲的に取り組み、数字としての成果を出す。</p>
<p>その他（学校関係者評価委員 から出された主な意見、要望）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領にある道徳教育にも力を入れてほしい。 ・読書の場としての図書館以外にも、探究活動の助けとなる図書館の活用を検討してみたい。 ・成人年齢18歳化に向け、主権者教育等にも尽力するとよい。
<p>学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成…学校評議員4名、PTA会長及びPTA役員数名 ・評価時期…1月下旬